
Mounting & Maintenance

取付けおよびメンテナンス

OSPW System

For SRAM Red/Force AXS eTap



CERAMICSPEED

Maintenance

メンテナンスについて

Oversizes Pulley Wheel (OSPW) のメンテナンスを適宜行いましょう。頻度は走行される地域の気候により変わります。

摩耗したチェーンをそのまま使用すると、プリーホイールも著しく摩耗するため、チェーンが摩耗する前に交換してください。OSPWの点検は、雨天時の走行、洗車、またはチェーンの潤滑後に行いましょう。通常のメンテナンスでは、潤滑部(3ページを参照)にオイルを一滴垂らします。OSPWを水平に保ち、オイルをプリー内のベアリングに届けさせましょう。

OSPWには、CeramicSpeed Oilの使用を推奨します。このオイルは世界各地のCeramicSpeed取扱店またはウェブショップにてご購入いただけます。CeramicSpeed.comのサポートページで、メンテナンスの紹介ビデオをご覧ください。

OSPWはバイク用トラベルバッグに適合しないため、遠征時にはリアディレーラーごと取り外して持ち運んでください。

Extended Maintenance

拡張メンテナンスについて

拡張メンテナンスを半年ごとに行いましょう。その際は、OSPWと左右両側のシールをディレーラーケースから取り外し、ディグリーザーで全てのパーツを洗浄します。その後、パーツを乾燥させ、CeramicSpeedのベアリング球にオイルを2滴垂らし、OSPWとシールを元の位置に取り付けます。

ケースプレートを取り外す際は、プリーホイールボルト(3ページ参照)を2.5mmの六角レンチで、タワーボルトを2mmの六角レンチで緩めます。各ボルトを取り付ける際は、プリーホイールボルトを1Nmで、タワーボルトを0.3Nmのトルクで締め付けます。その際はトルクレンチをお使いください。

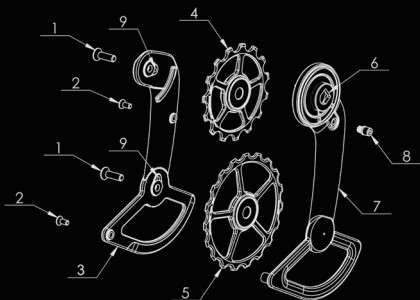
雨天時やマッドコンディションを走行され場合は、拡張メンテナンスをより頻繁に行い、All Round Greaseで各部を確実に保護しましょう。

Mounting the CeramicSpeed Oversized Pulley Wheel System for SRAM Red/Force AXS eTap

展開図

Pos. 名称

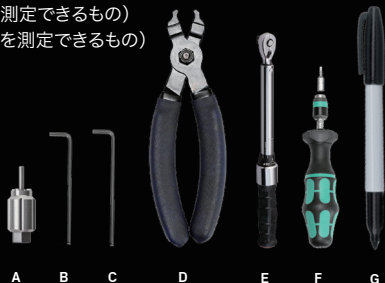
1	プーリーホイールボルト
2	タワーボルト
3	バックケージプレート
4	アッパープーリー
5	ロープーリー
6	ケージピボット
7	フロントケージプレート
8	回転ストップボルト
9	プーリーホイールの 潤滑部



必要なツール

CeramicSpeed Oversized Pulley Wheel SRAM Red/Force AXS eTapの取付けには以下のツールを使います。

- A: OSPWに付属する、4個の突起のついたナット取付用ツール
- B: 2mmの六角レンチ
- C: 2.5mmの六角レンチ
- D: チェーンツール
- E: トルクレンチ (3および6Nを測定できるもの)
- F: トルクレンチ (0.3および1Nを測定できるもの)
- G: 油性ペン



Mounting Manual

取り付け方法

最高の走行性能を発揮させるべく、OSPW (SRAM Red/Force AXS eTap用) を以下の手順に正しく従って取り付けましょう。



1. バイクをスタンドに固定し、チェーンとリアホイールを取り外します。ディレーラーをカセットの中央のギアまで変速させます。



2. リアディレーラーを取り外します。
両方のプリーホイールとプリーケージの裏側のみを取り外します。



3. フロントケージプレートをディレーラーごとを掴み、付属の専用ツールでメインセンターナットを緩めます。

このとき、完全に外さないでください。
ナットが十分に緩んだら、回転ストップボルトをディレーラー本体にある回転ストップの反対側まで回し、スプリングのテンションを解放させます。



4. メインセンターナットとバックケージプレートを取り外します。クラッチ機構により、ケージのスプリングにはわずかにテンションがかかっています。
スプリングとナットは取付け後も使用しますので、保管してください。



5. OSPWを開封し、回転ストップボルトを取り外します(ケージを取り付けたら付け直します)。OSPWの裏側から4個のボルト全てを取り外して分解します。これらのボルト、バックケージプレート、両方のプーリーホイールを保管します。



6. フロントケージプレートを掴み、リアディレクター内にあるD型センターポストを止まるまで半時計方向に回します。その後、フロントケージプレートを取り外します。



7. D型センターポストの切り欠きの向きがわかるよう、その端部(A)に油性ペンで印をつけます。



8. OSPWのケージプレートの裏側には、D型センターポストの切り欠きの向きを示した線の印がついています。



9. スプリングをディレクター本体に取り付けます。スプリングポストを正しい穴に挿入してください。この穴は他の穴より深くなっています(写真を参照)。スプリングがディレクター本体に確実に収まっていることを確かめます。



10. OSPWのケージプレートをディレラー裏側と合わせ、スプリングポストをケージ(B)のローテンション(L)にセットします。ここではD型センターポストの切り欠きの位置を合わせる必要はありません。



11. D型センターポストにケージプレートとメインセンターナットを載せ、付属の専用ツールを手で回るだけ回して締め込んでから、360度(1回転)緩めます。この時点で、センターポストの切り欠きの位置は合っていません。



12. D型センターポストにつけた印とケージプレート裏側の線との位置関係をメモします。ケージプレートをセンターポストに向かって時計方向に回し、メインセンターナットが回ったり締まったりしないことを確かめます。

ケージプレート裏側の線とD型センターポストの印が並ぶまで、ケージプレートを回します。位置が合ったら、ケージプレートをディレラー本体に押し付け、D型の切り欠きを固定します。確実に固定させるには、ケージプレートを上下白左右に動かす必要があるかもしれません。付属の専用ツールを使い、メインセンターナットを6Nmのトルクで締付けます。

センターポストのねじ山がナットの頭から出ている状態であれば、ケージプレートの取付けは完了です。



- 13.** ケージプレートを前方に回し、2.5mmの六角レンチを使って回転ストップボルトを3Nmのトルクで締め付けます。



- 14.** 15Tのプーリーをケージの上側に、19Tのプーリーを下側に取り付けます。プーリーの印を外側(ケージプレートのロゴがある側)に向けます。バックケージプレートを載せ、2.5mmの六角レンチで上下のプーリーホイールボルトを1Nmのトルクで、2.0mmの六角レンチをで上下のタワーボルトを0.3Nmのトルクで締め付けます。

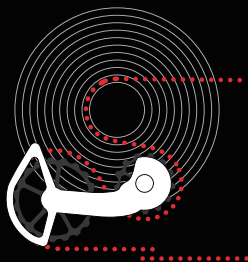


- 15.** ディレーラーをバイクに取り付けます。カセットのトップギアに変速し、リアホイールを取り付けます。次ページの手順に従い、新しいチェーンの長さを測定します。SRAMのマニュアルに従い、上下の回転ストップボルトとBテンションボルトを点検します。26Tのカセットでは14mm、28Tでは10mm、33Tでは5mmに間隔をセットします。

Chain length

チェーン長について

以下の手順に従い、現在のチェーン長を測り、必要に応じて交換しましょう。

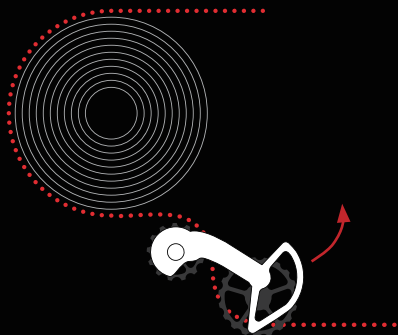


STEP 1 チェーンをリアカセットのトップ、フロントチェーンリングのインナーギアに変速します。

チェーンを切って長さを合わせるときのように、チェーンの両端を引っ張り、適切なチェーン長かどうかを判断します。2番目の図のように、ケージの下側がカセットから離れる形で下方へ動かそうとするはずですが。



STEP 2 チェーンの両端を引っ張り、OSPWを2番目の図の位置に合わせてからチェーンを切り(手順1より1リンク分短い)、このギアの組み合わせ(常にカセットのトップにあること)に必要なチェーンテンションが得られる個数のリンクでチェーンをつなぎます。



STEP 3 チェーンを適切な長さに切ったらカセットのローギアに変速し、OSPWとの間隔を確認します。ケージを半時計方向(図の矢印の向き)に動かせるはずですが、OSPWのアッププリーとカセットのローギアには、ある程度の間隔が必要です。この間隔が不十分であれば、Bテンションボルトを調整します。